

令和6年度 シラバス

教科	商業	科目	ソフトウェア活用	学年	第2学年	学科 種類	情報ビジネス科
単位数	2単位	教科書	ビジネス情報（実教出版）				
副教材	全商情報処理検定模擬問題集1級ビジネス情報（東京法令出版）						

学習目標	<p>1 ビジネスに関する情報を、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを利用して管理、分析、活用する知識や技術を習得します。</p> <p>2 ソフトウェアを利用した情報システムの開発について理解し、コンピュータを活用して業務を合理化、自動化するなど積極的に推進する創造的な能力と態度を育みます。</p>
------	--

キャリア教育の視点	<p>業務の情報化の必要性、情報通信ネットワークの導入と運用及びデータの保護を取り扱い、オフィス業務において情報通信ネットワークを効果的に活用するための基礎的な知識と技術を習得します。</p>
-----------	--

学習計画及び内容			考 査	
1 学 期	4月	4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネス情報とデータベース 2節 データベースの利用 3節 SQLの操作	<p>身近なテーマを基に、リレーショナル型データベースを活用して、データベースの検索機能についての知識や技術、データベースを操作するためのSQL言語を習得します。</p> <p>SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法を習得します。</p>	期末考査
	5月			
	6月			
	7月			
2 学 期	8月	5章 ソフトウェアを活用したシステム開発 1節 システム開発の基礎 2節 アルゴリズムの基礎	<p>ビジネスに関連したシステムの開発に必要な基礎的な知識と技術を習得します。</p> <p>システム開発における代表的な開発モデルと、ユーザインタフェースなどに配慮した開発手法について、基礎的知識を理解していきます。</p> <p>処理を自動化するときに、処理の流れを整理するためのアルゴリズムについて、基礎的及び応用的な手法を習得します。</p>	期末考査
	9月			
	10月			
	11月			
3 学 期	1月	2節 表計算ソフトウェアによる開発 3節 データベースソフトウェアによる開発	<p>表計算ソフトウェアのプログラミング機能を使用し、マクロ機能を用いた開発の基礎を習得します。マクロの記述によって、「繰り返し」や「判断」などの応用的な処理を自動化するための手法を習得します。</p> <p>データベースソフトウェアを利用し、設計書に基づいて実際にシステムを構築する手法を身に付けます。</p>	学年末考査
	2月			
	3月			

学習の方法	<p>「情報処理」の学習内容を基に、ビジネスにおける活用を具体的に学びます。授業内容が専門的になるため、教科書・副教材を積極的に活用するよう心掛けます。</p> <p>パソコンを目的に合わせて適切に活用する能力を養うため、積極的に実習に取り組むことが大切です。</p>
-------	--

評価の仕方	<p>知識・技術は、定期考査の成績と平常点で評価します。平常点は、検定の取得状況、小テスト、授業態度、課題や提出物などを総合的に評価します。</p> <p>思考・判断・表現は、習得した知識や技術を既存の知識や技術と関連付けたり、他の学習や生活の場面で活用したりすることができているか評価します。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度は、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながらよりよく学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。</p>
-------	--

備考	
----	--